

協議第9号

小城市公共施設等総合管理計画に係る個別施設計画の策定  
について

このことについて、別紙のとおり協議する。

令和3年12月23日

小城市教育員会 教育長 大野 敬一郎

協議理由

学校教育施設の個別施設計画を策定するため、小城市教育委員会教育長に対する事務委任規則第2条第1号の規定に基づき協議する。

# 学校教育施設／個別施設計画の策定について

1. 計画期間 10年  
※小城市公共施設等総合管理計画は25年。
2. 計画対象施設  
①小学校  
②中学校  
③その他施設（小城市学校給食センター、小城市芦刈給食センター）
3. 公共施設等総合管理計画での方針  
・現施設については、定期的な点検を行いながら計画的な修繕、改修を行うことで長寿命化を図る。  
・施設更新の際は、児童数、生徒数の減少に応じた施設規模とする。また、体育館や特別教室などについては、他施設との相互利用を考慮して検討する。  
・余剰教室などが出来た場合は、他施設を受け入れるなど複合的機能を持ち合わせた施設として公共施設全体の総量縮減に寄与できるよう検討を行う。  
・給食施設については、施設運営の効率化や経費削減などを目的とした、市内施設の一本化を検討する。

## 4. 個別施設計画での方針等

<p>今後の施設配置及び規模の考え方</p>	<p>①小学校：現施設について、定期的な点検を行いながら計画的な修繕・改修を行うことで長寿命化を図るとともに、他の公共施設との複合化についても検討を行っていく。また、施設改築の際は、児童数の減少に応じた施設規模とすることのほか、学校統合についても、必要に応じ検討する。</p> <p>②中学校：現施設について、定期的な点検を行いながら計画的な修繕、改修を行うことで長寿命化を図るとともに、他の公共施設との複合化についても検討を行っていく。また、施設改築の際は、生徒数の減少に応じた施設規模とすることのほか、学校統合についても、必要に応じ検討する。</p> <p>③その他施設：施設の施設運営の効率化や経費削減などを目的とした、市内施設の一本化を図る。</p>
<p>上記の考え方に至った根拠・理由・検討過程等</p>	<p>①小学校：将来的には人口減少に伴い児童数も減少していき、学校によっては余剰教室などが発生する可能性がある。また、近隣には老朽化が進んでいる公民館支館、学校敷地内には放課後児童クラブの専用施設もある。そのような他の公共施設の機能を、今後行う学校施設の大規模改築や長寿命化または改築を行う際に、各教室の広さなどを工夫して学校施設に持たせることで公共施設全体の総量縮減を図ることができると考える。人口減少や市財政の適正化を図る観点などから、学校統合も必要な時期が来ることが考えられる。</p> <p>②中学校：将来的には人口減少に伴い生徒数も減少していく。また、市立の体育センターなどの社会体育施設は老朽化が進んでいる状況で、現在の施設を更新する際は原則、総量縮減を行う方向であることから、今後行う学校施設の大規模改築や長寿命化または改築を行う際に、社会体育施設の機能の一部を学校施設に持たせることで公共施設全体の総量縮減を図ることができると考える。人口減少や市財政の適正化を図る観点などから、学校統合も必要な時期が来ることが考えられる。</p> <p>③その他施設：三日月小・牛津小・砥川小の給食施設は、竣工後30年以上経過しており老朽化が進んでいることから施設の維持管理が厳しくなっている。また、平成21年に施工された「学校給食施設衛生管理基準」にも適合していない状況であり、基準を満たす施設をそれぞれ建設する場合、現在の施設の約2倍の面積が必要になり、建設費が高額になるとともに学校敷地も不足することから、新小城市学校給食センターと一本化することで経費削減及び施設運営の効率化を図ることができると考えるため。</p>
<p>今後の施設の方針【計画期間（10年間）での方針】</p>	<p>①小学校：当面は、現施設の定期的な点検を行いながら計画的な修繕、改修を行うことで長寿命化を図る。また、学校統合について、必要に応じ検討する。</p> <p>②中学校：当面は、現施設の定期的な点検を行いながら計画的な修繕、改修を行うことで長寿命化を図る。</p> <p>③その他施設：当面は、新小城市給食センターの建設により小城市学校給食センター、三日月小給食室、牛津小給食室・砥川小給食室を一本化する。小城市芦刈給食センターについては、現施設の定期的な点検を行いながら計画的な修繕等を行うことで運営を行う。</p>

## 5. スケジュール

時期	内容
12月下旬	教育委員会への提案
1月中旬	パブリックコメントの実施
2月中旬	個別施設計画の策定
2月下旬	教育委員会へ報告

# 小城市公共施設等総合管理計画

## 個別施設計画 (案)

### 5. 学校教育施設

令和4年2月

【主管課】	教育委員会	教育総務課
【連携課】	教育委員会	学校教育課
	教育委員会	生涯学習課

# 1. 個別施設計画策定の趣旨及び概要

## (1) 公共施設等総合管理計画の目的・理念

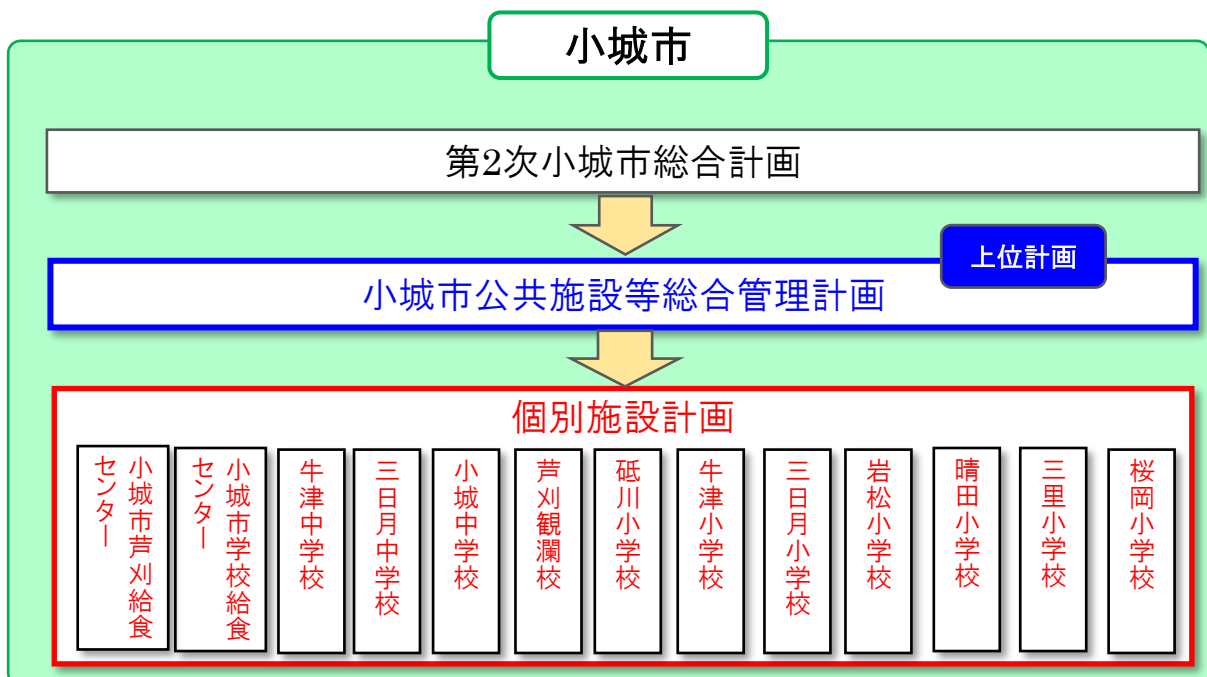
平成20年（2008年）から全国的に始まった人口減少が今後、加速度的に進むと予測されていく中で、小城市は、若者の流出や少子高齢化による人口減少が進展していきます。その中で、小城市が所有する公共施設等は、これから大量に更新時期を迎えます。これは、全国の自治体でも同様であり、平成25年11月にはインフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議において「インフラ長寿命化基本計画」が示されました。また、平成26年4月には各地方公共団体が所有する公共施設等の全体状況を把握し、地方公共団体を取り巻く現況及び将来の見通しを分析し、これらを踏まえた公共施設等の管理の基本的な方針を定めることを内容とする「公共施設等総合管理計画」の策定を行うよう総務省が各地方公共団体に要請されました。

小城市においても、公共施設等の全体を把握し、長期的な視点を持って、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現するために平成29年3月に『小城市公共施設等総合管理計画（以下、「総合管理計画」という。）』を策定しました。

個別施設計画は、公共施設等の最適な配置を実現するための各種方針を策定するため、インフラを含めた公共施設等の全体状況を把握し策定した総合管理計画に基づいて各施設目的別に作成するものです。

## (2) 公共施設等総合管理計画及び個別施設計画の位置づけ

総合管理計画は、小城市における公共施設等に関する計画の中で最高位の計画と位置付けております。その総合管理計画に基づき、個別施設または施設用途別ごとに、具体的な取り組みを実践していくために個別施設計画を策定します。



## 2. 学校教育施設の目的及び概要

### (1) 施設の設置目的

小・中学校については、個人の能力を伸ばし社会で自立的に生きる基礎を培い社会人として必要な資質を養う教育を行うことを目的としています。

給食センターについては、学校における「食育」の観点から展開する教育の分野であり、子どもたちの健全な発育に必要な食事を提供することを目的としています。

### (2) 施設の概要

#### ① 小学校

施設名	所在地	主な施設内容	構造	取得年度	床面積 (㎡)	児童数
桜岡 小学校	小城町166	校舎・体育館	校舎：鉄筋コンクリート 体育館：鉄筋コンクリート	校舎：S60 体育館：H1	5,310	457
三里 小学校	小城町 栗原1256	校舎・体育館	校舎：鉄筋コンクリート 体育館：鉄筋コンクリート	校舎：S62 体育館：S62	3,623	63
晴田 小学校	小城町 畑田2099	校舎・体育館	校舎：鉄筋コンクリート 体育館：鉄筋コンクリート	校舎：S61 体育館：S61	5,377	319
岩松 小学校	小城町 岩蔵1941	校舎・体育館	校舎：鉄筋コンクリート 体育館：鉄筋コンクリート	校舎：H1 体育館：H1	4,959	169
三日月 小学校	三日月町 長神田1680	校舎・体育館	校舎①：鉄筋コンクリート 校舎②：鉄筋コンクリート 体育館：鉄筋コンクリート	校舎①：H3 校舎②：H18 体育館：H12	8,679	744
牛津 小学校	牛津町 柿樋瀬922	校舎・体育館	校舎：鉄筋コンクリート 体育館：鉄筋コンクリート	校舎：S59 体育館：S59	6,004	416
砥川 小学校	牛津町 上砥川1405	校舎・体育館	校舎：鉄筋コンクリート 体育館：鉄筋コンクリート	校舎：S62 体育館：S62	4,136	136
芦刈 小学校	芦刈町 三王崎14	校舎・体育館	校舎：鉄筋コンクリート 体育館：鉄骨	校舎：H26 体育館：H26	9,356	223

※児童数：令和3年5月1日現在

※三日月小学校：H18年度 校舎②（教室・管理棟）を増築

※牛津小学校：H29年度 大規模改造

#### ② 中学校

施設名	所在地	主な施設内容	構造	取得年度	床面積 (㎡)	生徒数
小城 中学校	小城町 松尾4104	校舎・体育館 武道場	校舎：鉄筋コンクリート 体育館：鉄筋コンクリート 武道場：鉄骨	校舎：H20 体育館：H20 武道場：H5	12,108	522
三日月 中学校	三日月町 長神田1650	校舎・体育館 武道場	校舎①：鉄筋コンクリート 校舎②：鉄骨 体育館：鉄骨 武道場：鉄骨	校舎①：S54 校舎②：H5 体育館：S54 武道場：S54	5,901	343

牛津 中学校	牛津町 牛津549	校舎・体育館	校舎：鉄筋コンクリート 体育館：鉄筋コンクリート	校舎：H22 体育館：H11	10,810	276
芦刈 中学校	芦刈町 三王崎16	校舎	校舎：鉄筋コンクリート	校舎：S51	3,468	114

※生徒数：令和3年5月1日現在

※三日月中学校：H5年度 校舎②（木工・金工・調理・被服実習室）を増築

※芦刈中学校体育館は芦刈小学校と共用のため、芦刈小学校に記載

### ③その他施設

施設名	所在地	主な施設内容	構造	取得年度	床面積 (㎡)	給食 提供数 (食/日)
小城市 学校給 食セン ター	小城市 岩蔵1905-1	給食調理室	鉄筋コンクリート	H7	1,054	2,400
小城市 芦刈給 食セン ター	芦刈町 三王崎14	給食調理室	鉄骨	H23	476	500

### 3. 学校教育施設の個別施設計画の期間及び削減目標

総合管理計画は、平成29年（2017年）度から令和48年度（2066年度）までの50年間の将来予測推計に基づき、今後25年間の方向性を策定しております。

学校教育施設の個別施設計画は、令和3年度を初年度として総合管理計画の前半期に当たる令和12年度までの10年間の計画とします。

また、総合管理計画では、25年間で小城市が保有する建築物の全床面積を5%削減することとしていますので、学校教育施設の個別施設計画についても、その目標と整合を図りながら進めていきます。

### 4. 学校教育施設の個別施設計画の推進及び管理について

#### (1) 個別施設計画の推進

個別施設計画については、庁内及び関係機関等と協議を行うとともに、市民や議会等と情報を共有しながら推進に努めます。

#### (2) 個別施設計画の実施及び進行管理

個別施設計画については、事務事業を通して施設管理主管部署が主体的に実施していきます。また、計画の進行管理については、P D C Aサイクルに基づき継続的に計画を見直しながら進めていきます。

学校教育施設個別施設計画

中分類又は施設名		小学校					
担当課名		教育総務課					
施設名	所在地	取得年度	敷地面積(m <sup>2</sup> )	延床面積(m <sup>2</sup> )	最大階数	単独複合	主な機能の考え方(現状と課題)
桜岡小学校	小城町166番地	S60	15,042	5,310	3	単独	昭和60年度に校舎、平成元年度に体育館を整備 普通学級：13学級 特別支援学級：10学級 通級教室：1室 特別教室：6室 多目的教室：1室 体育館：1館 【現状】 校舎、体育館ともに建設から30年以上経過しており、外壁の爆裂や雨漏りなど老朽化が進んでいる状況。 学校選択制度該当4地区【三日月町久米・本告・甘木・土生】からの入学児童の増加により、児童数が10年前より10%程度増加している。また、特別な支援を要する児童の増加に伴い、特別支援学級数が増加している。 【課題】 将来推計をみると児童数が更に増加する傾向にあり、5年後には現在より12%程度増加することが見込まれる。現在も児童の増加及び特別支援学級の増加により教室が不足しており、特別支援学級においては、1つの教室を分割して使用している状況。また、全学年35人学級の導入により、普通学級の増加が見込まれることから教室の確保が課題となる。
三里小学校	小城町栗原1256番地	S62	17,394	3,623	3	単独	昭和62年度に校舎、体育館を整備 普通学級：5学級 特別支援学級：2学級 特別教室：7室 体育館：1館 【現状】 校舎、体育館ともに建設から30年以上経過しており、外壁の爆裂や雨漏りなど老朽化が進んでいる状況。プールは、建設から50年以上経過しており、老朽化が著しいため使用を停止し、民間のプールを活用している。 児童数は、4町合併時から徐々に減少しているが、ここ10年間は横ばいの状況である。また、特別な支援を要する児童は微増しているが、特別支援学級数に影響はない。 【課題】 将来推計をみると児童数が更に減少する傾向にあり、5年後には現在より15%程度減少することが見込まれ、現在、5・6年生が複式学級となっているが、更に複式学級となる学年の増加が懸念される。



学校教育施設個別施設計画

中分類又は施設名	小学校				取得年度	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	最大階数	単独複合	主な機能の考え方 (現状と課題)
	教育総務課									
	施設名	所在地								
晴田小学校	小城市畑田2099番地	S61	15,676	5,377	2	単独	昭和61年度に校舎、体育館を整備 普通学級：12学級 特別支援学級：5学級 特別教室：7室 多目的教室：1室 体育館：1館 【現状】 校舎、体育館ともに建設から30年以上経過しており、外壁の爆裂や雨漏りなど老朽化が進んでいる状況。 児童数は、10年前より14%程度減少している。しかしながら特別な支援を要する児童の増加に伴い、特別支援学級数が増加している。 【課題】 将来推計をみると児童数が更に減少する傾向にあり、5年後には現在より18%程度減少することが見込まれ、将来的に学年によっては普通学級が1クラスになる事が懸念される。			
岩松小学校	小城市岩蔵1941番地	H元	15,016	4,959	2	単独	平成元年度に校舎、体育館を整備 普通学級：6学級 特別支援学級：4学級 特別教室：12室 多目的教室：1室 体育館：1館 【現状】 校舎、体育館ともに建設から30年以上経過しており、特に屋根の老朽化による雨漏りやシロアリ被害、外壁の爆裂など多面的に老朽化が進んでいる状況。プールは、建設から50年以上経過しており、老朽化が著しいため使用を停止し、民間のプールを活用している。 児童数は、10年前より29%程度減少し、全学年普通学級が1クラスとなっている。また、特別な支援を要する児童数は、横ばい状態であり、特別支援学級数も横ばいである。 【課題】 将来推計をみると児童数が更に減少する傾向にあり、5年後には現在より20%程度減少することが見込まれる。			

学校教育施設個別施設計画

中分類又は施設名		小学校					
担当課名		教育総務課					
施設名	所在地	取得年度	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	最大階数	単独複合	主な機能の考え方 (現状と課題)
三日月小学校	三日月町長神田1680番地	H18	20,744	8,679	3	単独	<p>平成3年度に校舎整備、18年度に校舎増改築、12年度に体育館を整備(新築)            普通学級：24学級 特別支援学級：10学級 通級教室：1学級            特別教室：10室 多目的教室：1室 体育館：1館</p> <p>【現状】            旧校舎側は建設から30年程度経過しており、屋根から軒天への水の侵入による塗装の剥離など、徐々に老朽化が進んでいる状況。            児童数は、10年前より16%程度減少し、普通学級が最も多かった平成19年の28クラスから現在は24クラスと4クラス減少となっている。しかし、特別な支援を要する児童の増加に伴い、特別支援学級数が増加している。</p> <p>【課題】            将来推計をみると児童数が更に減少する傾向にあり、5年後には現在より12%程度減少することが見込まれる。            しかし、特別な支援を要する児童が増加しているため、特別支援学級においては、1つの教室を分割して使用している状況。今後も特別支援学級の増加が見込まれることから教室の確保が課題となる。</p>
牛津小学校	牛津町柿畑瀬922番地	S59	20,877	6,004	3	単独	<p>昭和59年度に校舎整備、平成30年度に校舎及び体育館の大規模改修整備            普通学級：13学級 特別支援学級：9学級            特別教室：7室 多目的教室：1室 体育館：1館</p> <p>【現状】            平成30年度に校舎及び体育館の大規模改修時に大幅な改修は済んでいるが、部分的に雨漏れや雨漏りによる床の補修を行っている状況。            児童数は、10年前より8%程度減少している。しかしながら特別な支援を要する児童の増加に伴い、特別支援学級数が増加している。</p> <p>【課題】            将来推計をみると児童数は、今後5年間横ばい傾向にある。            しかし、特別な支援を要する児童が増加しているため、特別支援学級の増加が見込まれることから教室の確保が課題となる。</p>

学校教育施設個別施設計画

中分類又は施設名	小学校				延床面積 (㎡)	最大階数	単独 複合	主な機能の考え方 (現状と課題)
	担当課名	所在地	取得年度	敷地面積 (㎡)				
砥川小学校	教育総務課	牛津町上砥川1405番地	S62	14,850	4,136	3	単独	昭和62年度に校舎、体育館を整備 普通学級：6学級 特別支援学級：5学級 特別教室：9室 体育館：1館 【現状】 校舎、体育館ともに建設から30年以上経過しており、外壁の爆裂など老朽化が進んでいる状況。 また、全体的に地盤沈下がみられる。 児童数は、4町合併時から徐々に減少しているが、ここ10年間は横ばいの状況である。また、特別な支援を要する児童の増加に伴い、特別支援学級数が増加している。 【課題】 将来推計をみると児童数が更に減少する傾向にあり、5年後には現在より18%程度減少することが見込まれる。 しかし、特別な支援を要する児童が増加しているため、特別支援学級の増加が見込まれることから教室の確保が課題となる。
								昭和50年度に旧中学校舎を整備 (平成22年度耐震補強) 平成26年度に校舎、平成24年度体育館を整備 (新築) 普通学級：10学級 特別支援学級：6学級 特別教室：12室 多目的教室：2室 体育館：1館 【現状】 校舎、体育館ともに建設から7～10年程度で、特に問題はみられない。 旧中学校校舎は建設から40年以上経過し、外壁の爆裂や雨漏りなど老朽化が深刻な状況。 児童生徒数は、10年前より26%程度減少している。小学3年生以外の学年は普通学級が1クラスとなっている。しかしながら特別な支援を要する児童の増加に伴い、特別支援学級数が増加している。 【課題】 将来推計をみると児童生徒数は、今後5年間横ばい傾向にある。 しかし、これまでの児童生徒数の減少により、旧中学校校舎で使用している教室数も減少していることから今後の利活用が課題である。
芦刈観瀾校 (中学部含む)		芦刈町三王崎14・16番地	H26	20,508	12,824	2	単独	

# 学校教育施設個別施設計画

中分類又は施設名	小学校				主な機能の考え方（現状と課題）
	担当課名	所在地	取得年度	敷地面積（㎡）	
教育総務課					
施設名				延床面積（㎡）	単独 最大 階数 複合
今後の施設配置及び規模の考え方	<p>現施設について、定期的な点検を行いながら計画的な修繕・改修を行うことで長寿命化を図るとともに、他の公共施設との複合化についても検討を行うっていく。</p> <p>また、施設改築の際は、児童数の減少に応じた施設規模とすることのほか、学校統合についても、必要に応じ検討する。</p>				
上記の考え方に至った根拠・理由・検討過程等	<p>将来的には人口減少に伴い児童数も減少していき、学校によっては余剰教室などが発生する可能性がある。また、近隣には老朽化が進んでいる公民館支館、学校敷地内には放課後児童クラブの専用施設がある。そのような他の公共施設の機能を、今後行う大規模改修や長寿命化または改築の際に、各教室の広さなどを工夫して学校施設に持たせることで公共施設全体の総量縮減を図ることができると考えられる。</p> <p>人口減少や市財政の適正化を図る観点などから、学校統合も必要な時期が来る可能性が考えられる。</p>				
今後の施設の方針【計画期間(10年間)での方針】	<p>当面は、現施設の定期的な点検を行いながら計画的な修繕、改修を行うことで長寿命化を図る。また、学校統合について、必要に応じ検討する。</p>				

学校教育施設個別施設計画

中分類又は施設名		中学校				
担当課名		教育総務課				
施設名	所在地	取得年度	敷地面積(m <sup>2</sup> )	延床面積(m <sup>2</sup> )	最大階数	単独複合
小城中学校	小城町松尾4104番地	H20	37,050	12,108	3	単独
<p>主な機能の考え方（現状と課題）</p> <p>平成20年度に校舎、体育館を整備（新築）                      普通学級：15学級 特別支援学級：7学級                      特別教室：12室 武道場：2室 体育館：1館                      【現状】                      平成20年度新築校舎、体育館は特に大きな問題はみられない。                      武道場は建設から30年程度経過しており、外壁の損傷など老朽化が進んでいる状況。                      生徒数は、10年前より12%程度減少しているが、令和元年からは増加傾向にある。                      また、特別な支援を要する生徒の増加に伴い、特別支援学級数が増加している。                      【課題】                      将来推計をみると生徒数は、今後5年間横ばい傾向にあるが、特別支援学級の増加により、教室の確保が課題となる。</p>						
三日月中学校	三日月町長神田1650番地	S54	21,059	5,901	3	単独
<p>昭和54年度に校舎(平成21年度耐震補強)、体育館を整備。昭和55年度に武道場を整備。                      普通学級：10学級 特別支援学級：3学級                      特別教室：11室 多目的教室：3室 剣道場1室 柔道場1室 体育館：1館                      【現状】                      校舎、体育館ともに建設から40年以上経過しており、屋根部の錆や雨漏りなど老朽化が進んでいる状況。                      生徒数は、10年前より29%程度減少している。しかしながら、特別な支援を要する生徒の増加に伴い、特別支援学級数が増加している。                      【課題】                      将来推計をみると生徒数は、今後5年間横ばい傾向にある。しかし、特別な支援を要する生徒が増加しているため、特別支援学級においては、1つの教室を分割して使用している状況。今後も特別支援学級の増加が見込まれることから教室の確保が課題となる。</p>						

# 学校教育施設個別施設計画

中分類又は施設名		中学校					
担当課名		教育総務課					
施設名	所在地	取得年度	敷地面積(m <sup>2</sup> )	延床面積(m <sup>2</sup> )	最大階数	単独複合	主な機能の考え方(現状と課題)
牛津中学校	牛津町牛津549番地	H22	36,837	10,810	3	単独	平成22年度に校舎整備(新築)、平成11年度に体育館を整備(新築) 普通学級:8学級 特別支援学級:5学級 特別教室:13室 多目的教室:1室 体育館:1館 【現状】 校舎、体育館ともに建設から10~20年程度で、特に問題はみられない。 生徒数は、10年前より11%程度減少している。しかしながら、特別な支援を要する生徒の増加に伴い、特別支援学級数は増加している。 【課題】 将来推計をみると生徒数が更に減少する傾向にあり、5年後には現在より8%程度減少することが見込まれる。しかし、特別支援学級の増加により、教室の確保が課題となる。
今後の施設配置及び規模の考え方		現施設について、定期的な点検を行いながら計画的な修繕、改修を行うことで長寿命化を図るとともに他の公共施設との複合化についても検討を行うていく。 また、施設改築の際は、生徒数の減少に応じた施設規模とすることのほか、学校統合についても、必要に応じ検討する。					
上記の考え方に至った根拠・理由・検討過程等		将来的には人口減少に伴い生徒数も減少していく。また、市立の体育センターなどの社会体育施設は老朽化が進んでいる状況で、現在の施設を更新する際は原則、総量縮減を行う方向であることから、今後行う大規模改築や長寿命化または改築の際には、社会体育施設の機能の一部を学校施設に持たせることで公共施設全体の総量縮減を図ることができると考える。 人口減少や市財政の適正化を図る観点などから、学校統合も必要な時期が来る可能性が考えられるため。					
今後の施設の方針【計画期間(10年間)での方針】		当面は、現施設の定期的な点検を行いながら計画的な修繕、改修を行うことで長寿命化を図る。					

# 学校教育施設個別施設計画

中分類又は施設名	その他施設				敷地面積 (㎡)	延床 面積 (㎡)	最大 階数	単独 複合	主な機能の考え方（現状と課題）
	担当課名	所在地	取得 年度	教育総務課					
小城市学校給食センター		小城市小城町岩蔵 1905番地1	H7	3,109	1,054	2	単独	平成7年度に共同調理場整備。 【現状】 建設から25年以上経過しており、建物全面的に老朽化が進んでいる状況。 また、現在の学校給食衛生管理基準に適合しておらず、衛生面での安全性が確保されていないため、食中毒等の事故を引き起こす恐れがある。 【課題】 令和5年度に新小城市学校給食センターへ統合するまでの間、食中毒等の事故を引き起こさないよう、衛生面へ十分な配慮が必要である。 平成23年度に共同調理場整備（新築） 【現状】 建設から10年程度で特に大きな問題はみられないが、調理場床の剥離等が発生しており軽微な補修が必要な状況。 【課題】 令和20年度に新小城市学校給食センターと統合予定のため、今後15年以上、老朽化に伴い衛生管理基準を遵守した維持補修が必要となる。	
小城市芦刈給食センター		小城市芦刈町三王崎14 番地	H23	1,158	476	1	単独		
今後の施設配置及び 規模の考え方	施設の施設運営の効率化や経費削減などを目的とした、市内施設の一本化を図る。								
上記の考え方に至った根拠・ 理由・検討過程等	三日小・牛津小・砥川小の給食施設は、竣工後30年以上経過しており老朽化が進んでいることから施設の維持管理が厳しくなっている。 また、平成21年に施工された「学校給食施設衛生管理基準」にも適合していない状況であり、基準を満たす施設をそれぞれ建設する場合、現在の施設の約2倍の面積が必要になり、建設費が高額になるとともに学校敷地も不足することから、新小城市学校給食センターと一本化することで経費削減及び施設運営の効率化を図ることができると考えられるため。								
今後の施設の方針 【計画期間(10年間)での方針】	当面は、新小城市給食センターの建設により小城市学校給食センター、三日小給食室、牛津小給食室、砥川小給食室を一本化する。小城市芦刈給食センターについては、現施設の定期的な点検を行いながら計画的な修繕等を行うことで運営を行う。								